

耐風性ネットハウスにおける彼岸作型スプレーギクの切り花特性

玉木 力・関塚史朗・比嘉良次・内藤 孝・勝連盛憲・照屋寛由¹⁾
(沖縄県農業試験場園芸支場・¹⁾ 沖縄県農業試験場名護支場)

Chikara Tamaki, Fumiaki Sekizuka, Ryozi Higa, Takashi Naito, Seiken Katuren and Hiroyoshi Teruya :
The Characteristics of Cut-flower of Spray Type Chrysanthemum Cultured at Higan Cropping Type
in Wind Tolerance Net-house

沖縄県では、1993年頃よりマメハモグリバエが侵入し、その被害の増大により切り花品質の低下や、対策として必要となる農薬散布増加による生産コスト上昇と生産者の健康面への影響などの問題を発生させている。沖縄県では施設全体を防虫ネットで被覆した耐風性ネットハウス (以後ネットハウスと略) を導入してその対応を図り、現在までに補助事業により約54ha 普及した。本研究では、マメハモグリバエの被害を最も受けやすいスプレーギクを用い、露地圃場やビニルハウス栽培と比較しながら、ネットハウスでの生育、開花特性を明らかにした。

1. 材料および方法

試験1：沖縄県農業試験場園芸支場の露地圃場、ネットハウス、雨よけビニルハウス (いずれも国頭マージ) において、「セイプリンス」外5品種を供試し、試験を実施した。挿芽を2002年11月30日、定植12月10日、摘心12月17日、消灯を2003年2月4日に実施し、収穫時に切り花収量・特性を調査した。

試験2：同園芸支場の露地圃場およびネットハウス (いずれも国頭マージ) において、「セイエルザ」、「オルフェ」および園芸支場交配選抜6系統を供試し、試験を実施した。挿芽を2003年11月4日、定植11月21日、摘心11月28日、消灯を2004年1月10日に実施し、収穫時に切り花収量・特性を調査した。

2. 結果および考察

試験1：ネットハウス区 (以下ネット区と略) の生育前半 (消灯前まで) における草丈伸長は、露地区と同様に雨よけビニルハウス区 (以下ビニル区と略) と比較し

て劣り、開花時草丈は約25~30%短くなった。しかし、生育後半では良く伸び、露地区より長い切り花を確保した。到花日数は、品種間差があるものの露地区よりも1~2日程度遅れた。ネット区の花蕾数も品種間差があり、ビニル区との差違は判然としないが、露地区より若干少なくなる傾向であった。しかし一部の品種を除き、花首は露地区よりも伸び、切り花重も十分確保していることから、切り花全体のボリュームとしては露地区と大差はないものと思われた。

試験2：ネット区の花首伸長は露地区より生育初期から優り、切花長は約10%長くなった。到花日数は品系間差があるが2~5日間長くなった。開花揃いは露地区とネット区で差違がなかった。花蕾数は、露地区より10%前後少なくなる品系が多かったが、花首と花房が長くなり、切り花のボリュームとしては、外観上やや優っているものと思われた。マメハモグリバエの被害は顕著な差が認められ、ネットハウスで極めて被害が少ないことが確認できた (第1表)。

以上の結果により、スプレーギクをネットハウスで栽培すると、年次変動や品種間差があるものの、概して露地圃場での栽培と比較して草丈伸長性が良くなり、到花日数が1~5日間長くなることが明らかになった。また、花蕾数は減少するが、花首長と花房長が伸び、外観上切り花のボリュームは露地区と同等又はそれ以上であると思われた。但し、品種間差が存在するので、品種導入に際しては、ネットハウス栽培での適応性検定が必要であると考える。

第1表 露地圃場とネットハウス栽培におけるスプレーギクの生育と切り花特性 (試験2)

品種・系統	花色	切り前 ^{a)} 月日	到花日数	開花揃 ^{b)}	草丈		調整 切花重 (g)	花蕾数 (個)	花首長 ^{c)} (cm)	マメハ被 害茎率 ^{d)} (%)	花房長 (cm)	第2-10節 間長 (cm)	花径 (cm)
					消灯前	開花時							
露地圃場													
セイエルザ	純白	3/9-13	57-61	△	44	89	86	20.7±3.2*	10.2±0.7	38	39.6±4.2	9.7±0.8	6.7±0.1
オルフェ	濃赤紫	3/9-11	57-59	○	51	116	106	18.0±3.6	7.2±1.3	10	41.2±4.7	13.1±2.0	7.8±0.3
99-57-1	濃ピンク	3/5-8	53-56	○	51	116	66	14.7±1.1	13.1±2.3	24	35.3±5.3	17.4±3.8	6.8±0.2
00-103-23	純白	3/8-11	56-59	○	40	90	79	18.8±2.7	10.1±1.0	9	38.5±4.0	13.3±1.3	5.0±0.1
01-21-14	赤紫	3/2-5	50-53	○	48	100	60	18.7±2.4	6.3±1.8	8	35.2±2.3	12.7±3.0	6.9±0.2
01-22-5	ピンク	3/6-9	54-57	○	58	113	90	17.8±1.7	8.9±1.1	25	38.8±2.4	13.9±1.8	6.7±0.2
01-65-8	濃ピンク	3/1-4	49-52	○	57	103	-	24.8±4.3	8.9±0.4	50	40.3±2.9	11.8±1.5	6.7±0.4
01-65-14	ピンク	3/7-9	55-57	○	59	111	-	22.8±3.9	7.3±1.4	0	40.3±2.6	9.8±0.9	7.6±0.2
ネットハウス													
セイエルザ	純白	3/14-16	62-64	○	45	104	100	20.2±2.0	11.9±0.9	5	41.5±4.3	12.8±1.8	6.7±0.2
オルフェ	濃赤紫	3/13-16	61-64	○	53	124	96	15.7±1.2	10.5±1.8	3	40.7±4.6	18.8±1.3	8.0±0.2
99-57-1	濃ピンク	3/7-12	50-60	△	54	122	62	12.8±0.9	12.8±1.1	0	38.4±6.0	19.5±1.7	6.4±0.1
00-103-23	純白	3/12-14	60-62	○	47	102	70	18.5±3.0	9.8±0.6	0	41.7±2.1	14.1±1.6	4.5±0.2
01-21-14	赤紫	3/7-9	55-59	△	60	112	60	16.7±1.5	6.5±0.8	0	38.1±1.9	13.2±1.0	6.4±0.2
01-22-5	ピンク	3/7-9	56-58	○	60	122	83	15.5±3.4	8.5±0.8	0	37.6±7.7	14.9±1.4	6.9±0.2
01-65-8	濃ピンク	3/5-8	53-56	○	61	112	-	19.2±2.8	9.0±0.6	0	36.6±4.3	11.8±1.0	7.5±0.2
01-65-14	ピンク	3/9-11	58-59	◎	63	129	-	19.2±3.4	8.9±0.8	0	45.1±4.7	11.6±1.9	7.9±0.3

注) a) 切り前月日; 頂花 (第1花) を除去して調査。

c) 花首長; 第10花における花首の長さ。

* 平均値±標準偏差。

b) 開花揃: ◎非常に良い、○やや良い~普通、△やや不良。

d) マメハ被害茎率%=被害茎数/調査茎数 (出荷サイズに調整後)。